

知多市避難所運営マニュアル (別冊)

新型コロナウイルス等感染症を踏まえた
避難所開設運営

令和2年9月

知多市

本手引について

新型コロナウイルス感染症の流行は、未だ終息が見えない状況が続いています。こうした状況下において、従来どおりの方法で避難所を開設・運営すると、避難所内で集団感染の発生を招くおそれがあります。

本マニュアルは、「知多市避難所運営マニュアル」に付随し、新型コロナウイルス等感染症の感染拡大を防止するために必要な対策や動きをまとめたものです。

避難所運営の基本的な体制は、「知多市避難所運営マニュアル」をベースとしつつ、新型コロナウイルス感染症流行下においては、本マニュアルを活用し、感染症対策に配慮した運営を行っていただくようお願いします。

なお、本マニュアルは、新型コロナウイルス感染症の新たな知見等を踏まえて、より実効性を高められるよう随時見直しを行います。

目次

避難所の感染症対策用物品	2
避難所開設時の対応	3
事前受付時の対応	4
一般の避難者への対応	6
体調不良者への対応	7
車中泊希望者への対応	9
避難スペースのレイアウトについて	10
消毒・清掃について	11
参考資料	
① 新型コロナウイルス等感染症を踏まえた避難所開設運営方針	12
② 避難スペースレイアウト様式	13
③ 新型コロナウイルス感染症受付対応マニュアル（避難所派遣職員用）	14
④ 健康管理チェックリスト	15
⑤ 避難所利用者登録票記入例	16
⑥ 避難スペースレイアウト案	17
⑦ その他の掲示用チラシ	18
⑧ 避難前における新型コロナウイルス感染症対応マニュアル （市民相談用）	20
⑨ ダンボール間仕切り（マジックパネル）組み立て方法	21
⑩ ワンタッチパーテーション（防災ルーム）の組み立て方法	22
⑪ ダンボールベッド（Eベッド+）の組み立て方法	23
⑫ ダンボールを使った間仕切り等の作り方	24

避難所の感染症対策用物品

避難所名 市内21施設

避難所の物資・資材等リスト(新型コロナウイルス感染症対策分)

品名	現在量※	目標量	1避難所当たり	保管場所	メモ
マスク	21500	22500	約1070	収納ケース 他	収納ケース内200、 防災倉庫、備蓄倉庫内870(予備)
消毒液(アルコール系)	55	210	10	収納ケース	ℓ/本
消毒液(次亜塩素酸ナトリウム)	63	63	3	収納ケース	塩素系漂白剤等
体温計(非接触型)	42	47	2	収納ケース	
体温計(その他)	21	42	2	収納ケース	
体温計用アルカリ単3電池	126	126	6	収納ケース	
ペーパータオル	10	42	2	収納ケース	200枚/セット
ティッシュ	0	105	5	収納ケース	
ゴミ袋(医療廃棄物用)	21	21	1	収納ケース	50枚/袋×1袋
ゴム手袋	0	42	2	収納ケース	100枚/袋
感染防止衣1式(使い捨てガウン等)	300	300	14	収納ケース	1日2回交換 避難所派遣職員
レインコート	210	210	10	収納ケース	
フェイスシールド	200	200	10	収納ケース	
ビニルシート	21	21	1	収納ケース 横	100mロール、ソーニング用 簡易ガウン用
ガムテープ等	378	378	18	収納ケース	赤(6巻)、黄色(6巻) 緑色(養生テープ 6巻)
サイン			各2	収納ケース	ソーシャルディスタンス、事前受付、総合受付、レッドゾーン(汚染区域)、イエローゾーン(準汚染区域)、グリーンゾーン(清潔区域)、居住スペースへ、専用スペースへ、これより先防護服着用、トイレの清掃手順
情報掲示板掲示資料			各3	収納ケース	感染症対策、エコノミークラス症候群、入退室のルール、衛生環境保持
健康管理チェックリスト	6300	6300	300	収納ケース	
避難所利用者登録票、事務用品1式			1式	防災倉庫 備蓄倉庫 施設常備	避難所開設バック(黒)内 事務用品は施設常備品も利用
★以下必要に応じて					
ポンプ式ハンドソープ				施設常備	
家庭用洗剤				施設常備	
除菌用アルコールティッシュ	124	124	5~8	防災倉庫 備蓄倉庫	
タオル	3600	3600		備蓄倉庫	
ゴミ袋(産業廃棄物用)	11000	11000		備蓄倉庫	50枚/袋×5袋
間仕切り用パーティション	38	38	2	防災倉庫 備蓄倉庫	6畳用10式
ワンタッチパーティション		750			
テント	15	15	1	備蓄倉庫	個室、世帯用
簡易トイレ	134	134	6	防災倉庫 備蓄倉庫	
仮設トイレ	36	36	2	備蓄倉庫	
ダンボールベッド		1100			協定先から調達(東明工業)を含める

★避難所開設時は「収納ケース」「ビニルシート」「避難所開設バック」を避難所内へ、

収納ケース：各避難所に隣接する防災倉庫、備蓄倉庫内に保管してある感染対策用大型収納ケース(青)3個

避難所開設バック：各避難所に隣接する防災倉庫、備蓄倉庫内に保管してある主に地震時に利用するバック(黒)1個

施設常備：避難所となる施設の常備品を利用

防災倉庫・備蓄倉庫：各倉庫内の棚に保管

青少年会館は所定の倉庫で保管

※2年8月の現在量で目標量に向け調達中

※避難所によっては、保管スペースの規模の都合上、上記と数量が異なる場合があります。

避難所開設時の対応

まずは、避難所運営に携わるみなさん自身の体調管理と感染症対策にくれぐれも配慮してください。

限られた物資や施設環境の中での運営となるため、本方針に記載のとおり行えない場合は、新型コロナウイルス感染症に関する一般的な知見に基づき、臨機応変に判断いただくようお願いいたします。

1 避難所派遣職員の感染症対策の徹底

- 避難所の運営に携わる者は、業務開始前に自身の体温の計測をはじめ、体調のチェックを実施する。
- 避難所開設中は、定期的な体温計測や健康状態の把握、消毒の適宜実施等、感染症予防に努める。

※避難所閉鎖後も体温の計測や健康管理チェックは定期的実施する。

- 受付業務を開始する前に感染症対策用物品による消毒、着装を徹底する

・マスク ・消毒液（アルコール、次亜塩素酸ナトリウム） ・フェイスシールド ・レインコート ・感染防止衣 ・ゴム手袋

- 着装用の物品は数量が限られるため、運営に携わる者同士で物品を交互に用いる場合は、都度消毒を行う。

2 避難スペースの事前準備

- 避難スペース内の窓を開けるなどし、空気が滞留しないようにする。

※対角線上にある窓を2か所開けるとより効果的。

- 避難スペース内に、手洗い・咳エチケット徹底の啓発チラシを貼付する。
- 13 ページの『避難スペース レイアウト様式』を活用し、避難スペースを区画分けし、受付担当者用と掲示用の2部を作成し、掲示用のものは避難スペースの入口付近に貼付する。
- 高齢者や障がい者などの要配慮者用に、なるべく環境の良いスペース（身動きがとりやすい、トイレに近いなど）を確保しておく。

事前受付時の対応

風水害などで、緊急避難場所として開設する場合と、大規模地震の発生などにより避難所として開設する場合では、避難者数や運営体制が大きく異なることが予想されます。緊急避難場所の場合、開設期間は概ね一晩、長くても1～2日程度で、避難者も比較的少人数が見込まれる一方、避難所の場合、開設期間の長期化や避難者数が増えることが見込まれます。

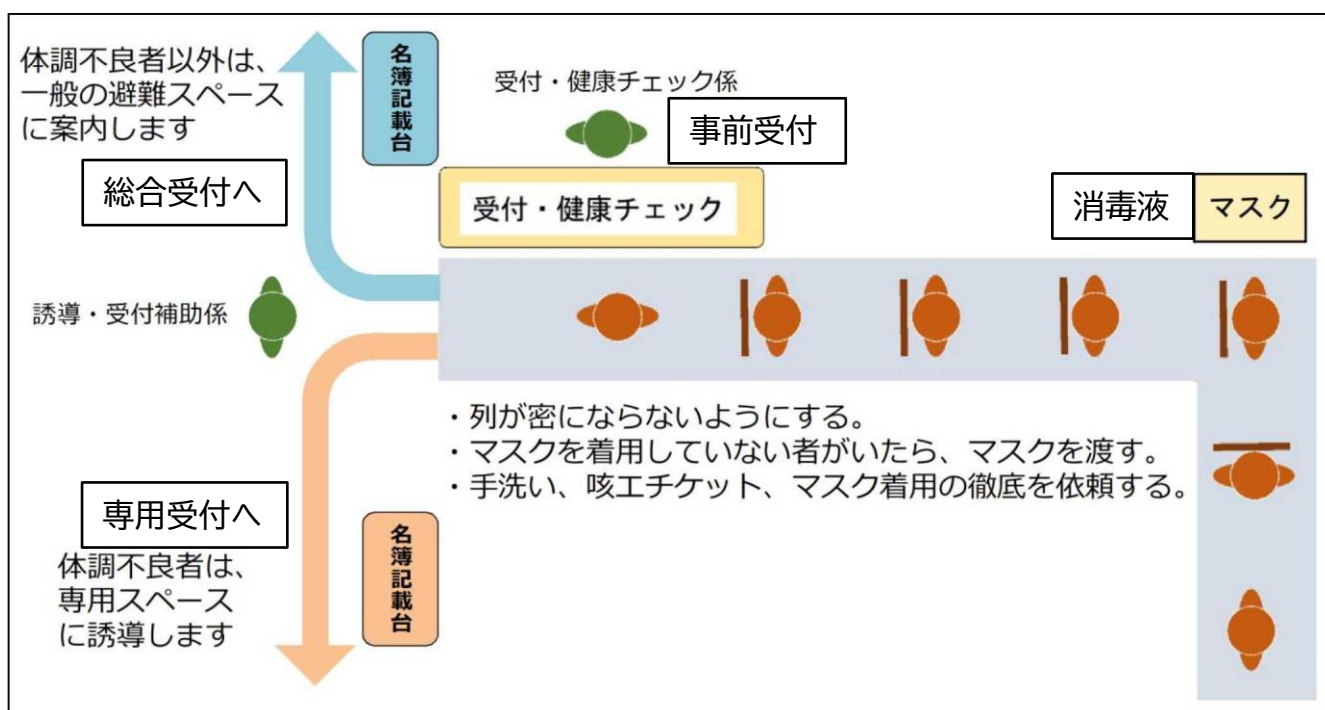
したがって、避難所の職員だけで運営することは極めて困難です。

避難者の状況に応じて、地域の自治組織(自治会、自主防災組織)や施設管理者、避難者に協力を依頼しながら、全体のコントロールをお願いします。

1 避難者の事前受付の設置

□ 下の図を参考に、避難スペースの出入口付近の屋外(軒下)に受付を設置する。

※地震発生時は、グラウンドなど建物から離れた場所に設置する。



□ 避難者の列が、密接しないよう、養生テープを用いて2メートル(十分な広さがない場合は1メートル)程度の間隔でマーキングを行う。

□ 事前受付用の机に非接触体温計と消毒液を準備する。

□ 避難所利用者登録票の名簿記載台を「総合受付(一般用)」と「専用受付(体調不良者用)」の2か所用意する。

- 総合受付と専用受付の名簿記載台に「避難所利用者登録票」（防災倉庫内キャリーバックに 500 枚あり）を用意する。
- マスクは列の後方（目の届く範囲）に配置し、未着用の避難者に着用を促す。
- 事前受付前の手洗いを促す。
- 開設当初は、避難所派遣職員の 1 名が受付・健康管理チェックを、もう 1 名は誘導・受付補助を行う。

2 避難者の事前受付・健康管理チェックの実施

- 避難者が来たら世帯単位で受付を行う。
- 避難者に手指消毒を依頼する。
- 避難者の体温を計測する。（非接触型）
 - ・髪を手で掻き上げてもらい、額の中央辺りで計測する。
 - ・5センチ以内に保ち計測する。
- 避難者の体調について聞き取りを行う。
 - ※聞き取り項目については、14 ページの『新型コロナウイルス感染症受付対応マニュアル（避難所派遣職員用）』を参照。
 - ※避難者のプライバシーやコロナハラスメント防止に配慮し、周りの避難者の状況などに応じて、チェックリストを掲示し、「該当する項目はありますか？」といった聞き方や指差しなどによる確認を心掛ける。
- 体調不良者とするか否かを判断する。
 - ※以下に該当する場合、体調不良者とする

- ・ 体温計測で高熱※がある または、
- ・ 健康管理チェックリストのいずれかに該当する

※高熱の線引きが難しいため、37.5度前後を目安に平熱の聞き取りなどにより総合的に判断する。

- 体調不良者に対しては、避難所利用者登録票の裏面「本人からの申告・聞き取り事項など」の欄に、計測した体温や聞き取った体調について受付で記入（16 ページの裏面記入例参照）した上で、専用受付（体調不良者用）の名簿記載台に案内する。
- 体調不良者としない避難者は、総合受付（一般用）の名簿記載台に案内する。

一般の避難者への対応

健康な方(新型コロナウイルス感染症の可能性が低いと見込まれる方含む)は一般の避難スペースに滞在してもらいます。ただし、一般の避難スペースと言っても、3密回避を徹底し、感染防止に最大限配慮します。

また、一般の避難者には、高齢者や障がい者等の要配慮者も含まれます。

1 避難所利用者登録票の記入

- 総合受付（一般の避難者用）の名簿記載台で、避難所利用者登録票を記入してもらう。
※世帯単位で記入。

2 滞在場所の決定

- 3 ページの事前準備で作成した、避難スペースを区画分けしたものをもとに、避難者(世帯)が滞在する場所(区画)を決める。
- 避難所利用者登録票の「受付番号」欄に避難スペースの区画番号を記入する。(16 ページの表面記入例参照 **A-1 ○○教室**)
- 高齢者や障がい者など要配慮者は、予め確保した、要配慮者用スペースを割り当てる。
- 入口付近に掲示したレイアウト用紙を参考に移動してもらう。
※避難者が少なく手が空いている場合は、付き添って誘導する。
- 入室前に手洗いを促す。

3 健康管理

- 手洗い消毒や咳エチケットの徹底など、感染症予防の留意事項を伝える。
- 定期的(少なくとも朝晩2回)に、体温計測と健康管理チェックを実施する。
※体温計を持参している方は、自身での計測と申告を依頼する。
※食料の配給と合わせるなどして、順番に受付等に来てもらう。
- 5 ページの体調不良者の要件に該当した場合は、以降、体調不良者として取り扱う。
※滞在していた区画周辺は、消毒を行う。

体調不良者への対応

新型コロナウイルス感染症が疑われる症状のある避難者は、一般の避難者とは滞在場所や動線を区別します。ただし、感染者と決まったわけではないため、差別対応やコロナハラスメントにつながらないよう配慮が必要です。

1 避難所利用者登録票の記入

- 専用受付（体調不良者用）の名簿記載台で、避難所利用者登録票を記入してもらう。
 - ※世帯単位で記入。
 - ※体調により自筆困難な場合は、聞き取り等により代筆する。
- 新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者であった場合は、速やかに災害対策本部に連絡し指示を仰ぐ。
- 明らかに体調が悪く、新型コロナウイルス感染症が疑われる場合は、体調不良者や世帯員の承諾を得た上で、
帰国者・接触者相談センター(0562-32-1699)に連絡する。
- 意識や呼吸が弱い場合等は、119番通報する。

2 滞在場所の決定

- 使用可能な教室等を示した避難所施設の見取図(各避難所に配付予定)を参考に、体調不良者を滞在させる専用スペースを決定する。
 - ※専用スペースは世帯単位で割り当てる。
- 避難所利用者登録票の「受付番号」欄に割り当てた専用スペースの区画番号(部屋名、教室名等)を記入する。(16ページの表面記入例参照)
- 決定した専用スペースに誘導する。
 - ※なるべく密接状態とならないように誘導する。
- 入室前に手洗いを促す。
- トイレや手洗い場等についても一般の避難者と別に指定し案内する。

3 健康管理

- 手洗い消毒や咳エチケットの徹底など、感染症予防の留意事項を伝える。
- 健康管理チェックリストに基づき定期的(1日朝晩2回程度)に、体温計測と健康管理チェックを実施する。
 - ※特に高齢者などの要配慮者は重症化しやすいため注意する。
- 体温や健康管理の経過について、チェックリストに記録を取っていく。
- 食事等の配給は、一般の避難者の動線と重ならない場所を指定して取りに来てもらうか、専用スペースの前まで持参する。
- 体調急変時の連絡方法を決めておく。
 - ※避難所施設の連絡先電話番号を伝える、携帯電話を所持していない場合、張り紙やカーテンを全開にするなど。
- 病状が悪化し、新型コロナウイルス感染症が疑われる場合は、
帰国者・接触者相談センター(0562-32-1699)に連絡する。
- 意識や呼吸がない場合等は、119番通報する。
- 体調不良者が増え、専用スペースが不足する場合は、ダンボール間仕切り(マジックパネル)やワンタッチパーテーション(防災ルーム)を使って専用スペースを確保する。
 - ※不足が予想される場合は、災害対策本部事務局に電話、FAXを使用して感染症用資機材の輸送を要請する。
- 保健師の巡回時に、健康状態についての情報提供や相談を行う。
- 保健師の指導に基づき、衛生環境の維持・改善に努める。

車中泊希望者への対応

新型コロナウイルス感染症への感染を心配して、車中泊避難を希望する避難者がいることが予想されます。他の避難者と同様に、受付と健康管理チェックを行ってください。エコノミークラス症候群対策など、車中泊をする上での注意点について呼びかけましょう。

1 避難所利用者登録票の記入

- 希望する避難者が体調不良者であれば体調不良者用の名簿記載台で、それ以外であれば一般用の名簿記載台で避難所利用者登録票を記入してもらう。(世帯単位)
- 体調不良者に対しては、避難所利用者登録票の裏面「本人からの申告・聞き取り事項など」の欄に、計測した体温や聞き取った体調について受付で記入する。(16 ページの裏面記入例参照)

2 滞在場所(駐車スペース)の決定

- 避難者が少なければ、施設の駐車場で指定する。
※状況に応じて、駐車スペースが変更となる可能性がある旨を伝える。
- 避難所の施設管理者がいれば、グラウンド等への駐車について協議する。
- 避難所利用者登録票の「滞在を希望する場所」欄の「③車両」を「避難所を利用する人」「場所」の欄に番号を記入し、割り当てた駐車スペースのなるべく詳しい位置と車のナンバーを記入する。(16 ページの表面記入例参照)

3 注意喚起

- 車中泊をする上での注意点について説明する。
 - ・エコノミークラス症候群対策をはじめ、体調管理に留意すること。
 - ・排気ガスによる健康被害を防ぐため、エンジンをかけたままにしない。
 - ・車内は、夏は非常に高温に、冬は非常に低温になるため、車内環境に気を付ける。
 - ・バッテリーが上がらないように気を付ける。
 - ・車を離れるときは車上狙いに遭わないよう、必ず施錠する。

避難スペースのレイアウトについて

密集・密接を避けるため、従来とは異なるレイアウトが必要です。

ダンボール間仕切りやダンボールベッドなど、大型の資機材は当初から避難所に用意がないため、養生テープなどを活用したゾーニングが必要です。

1 避難スペースのゾーニング

- 17 ページの「避難スペースレイアウト案」を参考に、避難者(世帯)同士の間隔が2メートル以上空くように配置する。

※感染症セットコンテナ内にある廃棄ホースに2メートル間隔でマーキングしてあるので活用してください。

- 避難者が増えてきたら、適切に密集を回避するため、養生テープを貼ったり、フォールディングマットやブルーシートを配置するなどして分かりやすく示す。

※ただし、高齢者や障がい者等の要配慮者に優先的に配付する物品を考慮する。
例 ダンボールベッド 簡易ベッド等

- 避難者が増え、2メートルの距離の確保が困難になってきたら、ダンボール間仕切り等、ゾーニング用の資機材の活用や、他の避難所への誘導が必要となるため、災害対策本部に相談する。

2 ゾーニング用資機材の設営

- ダンボール間仕切り（マジックパネル）の組み立て方法は、21 ページを参照。
- ワンタッチパーテーション（防災ルーム）の組み立て方法は、22 ページを参照。
- ダンボールベッド（Eベッド+）の組み立て方法は、23 ページを参照。

3 身近にあるものの活用

- 24 ページの「ダンボールを使った間仕切り等の作成方法」を参照。

4 良好な環境の確保

- 避難スペースの換気は、常時若しくはこまめ（1時間に2回程度）に行う。
- 施設にある備品(扇風機等)を活用し、暑さ寒さ対策に努める。

消毒・清掃について

新型コロナウイルスは「接触」か「飛沫」により感染します。感染予防には、ウイルスを含む飛沫やウイルスの付着した手などが、目・鼻・口の粘膜と接触することを防ぐことが重要なポイントとなります。

1 こまめな消毒

- 受付時に避難者が使用した筆記用具、受付台等は使用毎に消毒を行う。
- 多数の者が触れる個所は、定期的(少なくとも1時間に1回程度)に、消毒を実施する。

2 消毒方法

- 必ず感染症対策用物品を装着したまま消毒を行う。
- 備蓄されたアルコール製剤入りの消毒液用ボトルを使用し、消毒する場所に噴霧し、ペーパーティッシュ等で一方向へ拭き取る。また必要であれば、次亜塩素酸消毒液を使用し消毒する。

※備蓄している消毒液は、噴霧すると極めて短い時間で菌やウイルスを除菌する。

- 消毒に用いたティッシュ等は、すぐにゴミ袋に入れて密封する。
- 消毒後は必ず手を洗う。

3 施設内の消毒場所

- ドアノブ、手すり、照明のスイッチ、トイレのふた、椅子、机など
- 万一備蓄品以外の消毒剤を使用する場合は、製品に記載されている「使用上の注意」をよく読んでから使用する。

4 避難所閉鎖時の清掃と消毒について

- 消毒を始める前に、換気を継続しながらゴミやホコリを取る清掃を行う。
- 消毒方法は上記の2と同様に、消毒場所は上記の3に加えて避難スペースの床や壁などについても、可能な範囲で消毒を実施する。

新型コロナウイルス等感染症を踏まえた避難所開設運営方針

1 目的

感染症が流行している状況で、感染予防や感染拡大防止を図りながら避難所を開設・運営することを目的に本方針を定める。

2 基本的な対策方針

- (1) 避難所の過密（3密）状態防止
- (2) 避難所の衛生管理及び避難者の健康管理の徹底
- (3) 新たな避難所スペースの確保
- (4) 避難者自身の感染予防対策・感染拡大防止措置の理解と協力依頼
- (5) 感染が疑われる避難者への適切な対応

3 具体的な対策方法

- (1) 避難所の過密（3密）状態防止
 - ・ 避難所が過密状態になることを防ぐため、在宅避難又は親族・知人宅への避難を検討するよう周知する。
 - ・ 在宅避難などの避難所外避難者（車中泊含む）への物資支援等は、指定避難所に対応する。（指定避難所で受付登録した避難者）
- (2) 避難所の衛生管理及び避難者の健康管理の徹底
 - < 手洗い及び咳エチケットの徹底 >
 - ・ 手洗い及び咳エチケットを避難者に徹底させるため、避難所内の情報掲示板に厚生労働省作成の感染症対策チラシを掲示する。
 - < 十分な換気の実施 >
 - ・ 避難所内、特に居住スペースについては十分な換気に努める。
 - < 十分な居住スペース及び社会的・身体的距離の確保 >
 - ・ 居住スペースは、1人当たり4㎡とし、家族単位とする。また家族間の間隔は事前に養生テープ等で示し2mを確保する。
 - < 入所時及び定期的な健康チェック >
 - ・ 避難所受入れ時及び朝晩2回検温を実施し、避難者自身が「健康管理チェックリスト」により健康管理をする。
 - ・ 車中泊におけるエコノミクス症候群対策として、避難所内の情報掲示板に注意喚起チラシを掲示する。また受付時に注意事項を案内する。
 - < 災害用備蓄品（衛生用品）の積極的な活用 >
 - ・ 避難所に配備されているマスク、消毒液、ウェットティッシュ、ゴム手袋といった衛生環境を保持するための備蓄品を積極的に活用する。
 - ・ 消毒液は必ず受付及びトイレ前に設置する。
- (3) 新たな避難所スペースの確保

- ・ 発災時には、可能な範囲で多くの指定避難所を開設する。（別紙）
- ・ 指定避難所におけるスペース確保のため、学校における教室の活用等、避難所として使用できるスペースを最大限拡大するよう努める。

- (4) 避難者自身の感染予防対策・感染拡大防止措置の理解と協力依頼
 - ・ 避難の際には、食料、飲料水等の他、マスク、消毒液、消毒剤の持参の協力を依頼する。
 - ・ こまめに手洗いをする。特に食事前、トイレ使用後は徹底する。
 - ・ 原則マスクを着用する。マスクがない場合は、ティッシュやハンカチで口と鼻を覆う。また、とっさに咳が出るときは袖や上着の内側で覆う。
 - ・ 向かい合わせではなく背を向けて座るようにする。
 - ・ 風邪の症状（発熱、咳）がある、又は強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある場合は、速やかに避難所派遣職員に報告する（健康管理チェックリストによる自己管理）。
 - ・ 物品等は、定期的に、又は、目に見える汚れがあるときに、家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整える。特に、共用スペースの清掃、消毒をこまめに行う。トイレについては、1日最低3回以上徹底消毒を行う。
- (5) 感染が疑われる避難者への適切な対応
 - ・ 感染が疑われる者が避難してきた場合や、避難者に発熱、咳等の症状が出た場合には、対象者を隔離したうえで避難所から専門機関に連絡し、検査、入院の調整をする。
 - ・ やむを得ず専門機関との調整中、一時的に避難所内に待機させる場合には専用スペースを確保する。その際、スペースは可能な限り個室にするとともに、専用のトイレを確保する。また、専用スペースを確保できない場合は、可能な範囲でパーテーションやビニールシートで区切る等の工夫をする。

避難スペース レイアウト様式

	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3						
4						

ステージ

- ①必要に応じて線を追加したり、スペースを塗りつぶして削除するなどしてください。
- ②縦列にアルファベットを、横列に数字を振って、ブロック分けします。

新型コロナウイルス感染症受付対応マニュアル（避難所派遣職員用）

令和2年7月

事前受付 担当者：

- 事前受付者（必ず1名で対応）は、感染防止として常時マスク、ゴム手袋、使い捨てガウン着用
 - アルコール消毒、マスク着用の声掛け、検温チェック（非接触型体温計）
 - ★キーワードの確認（下記の症状等が1つでもある方は①、ない方は②へ）
 - 感染が確認されている自宅療養中または感染者と接触（の疑い）がある
 - 風邪症状（発熱、咳） 高熱（37.5℃） 強いだるさ 強い息苦しさ
 - その他、新型コロナウイルスに関する用語（においや味を感じにくい 等）

② チェックがつかなかった方

① チェックが1つでもついた方
※本人、家族及び関係者にはマスクを常時着用させ①受付を案内

② 総合受付 担当者：

① 専用受付（聴 取） 担当者：

入所受付手順（①、②共通）

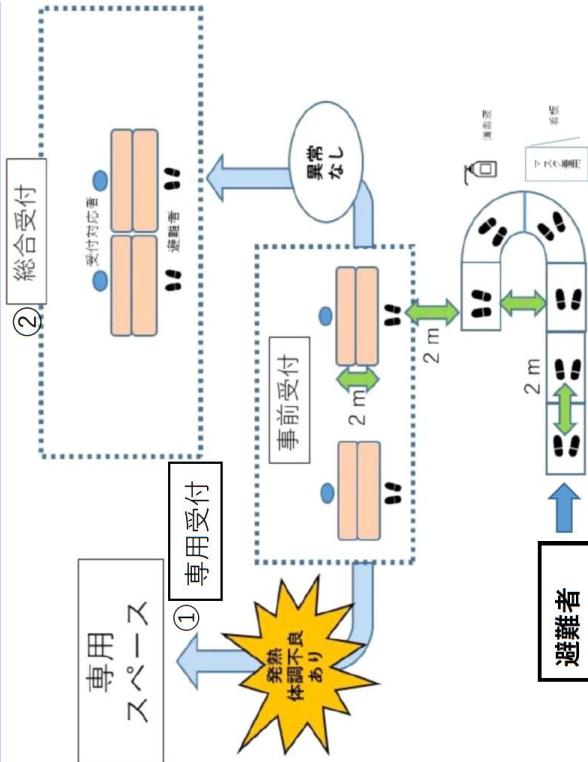
- アルコール消毒、マスク着用の声掛け、再度の検温チェック（避難者持参の体温計等）
- 避難所利用者登録票、健康管理チェックリスト（世帯ごと1枚）への記入
- 避難所内情報掲示板への案内（入退所ルール、衛生環境保持のためのルール、エコノミークラクラ症候群予防が掲示）

居住（一時滞在）スペースへ
・発熱などの症状がある方は①受付を案内

問診

- 聴取者（必ず1名で対応）は、感染防止を徹底（使い捨てガウン、ゴーグル、N95マスク、手袋）
 - ★聴取内容（対面を避けビニールシート等を介すること。）
 - 新型コロナウイルス感染（疑い）に該当する ※2を案内
 - 下記の感染を疑う症状がある ※1を案内
 - ①強い息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある
 - ②重症化しやすい方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある（高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方、妊娠されている方）
 - ③上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く（症状が4日以上続く場合や強い症状、解熱剤を飲み続けなければならない症状がある場合、必ず相談して下さい。）
- 補足
- ・小児で感染を疑う症状がある場合、かかりつけ小児医療機関 又は ※1を案内
 - ・該当症状が無く本人や家族等が感染を疑う場合又は判断に迷う場合 ※1を案内

事前受付のレイアウト（例）



※1 本人または家族等に下記へ連絡し相談してもらう。

① 帰国者・接触者相談センター（知多保健所）

平日・午前9:00～午後5時まで 夜間・土日・祝日：オンコール（24時間）体制

☎ 0562-32-1699

② 厚生労働省の電話相談窓口

症状に不安がある場合など一般的な問合せについての窓口

受付時間 9:00～21:00（土日・祝日も実施）

☎ 0120-565-653

帰国者・接触者相談センター、電話相談窓口では、相談結果で感染の疑いがある場合は専門の「帰国者・接触者外来」を紹介しています。

※2 知多保健所に連絡し指示・助言を受ける。

☎ 0562-32-6211

担当 環境食品安全課（24H 夜間当直）

保健所が搬送するか救急車で搬送するかを確認する。

搬送医療機関の選定をお願いする。

健康管理チェックリスト

世帯主氏名

受付番号

- 入所時以降朝晩2回、体温を測定して記入してください。
- こまめな手洗いをを行い、咳エチケットを守りましょう。
- 以下の場合は、必ず避難所派遣職員に報告してください。
 - ・37.5℃以上の発熱がある
 - ・強いだるさ（倦怠感）がある。
 - ・強い息苦しさ（呼吸困難）がある。

避難所入所時				世帯主氏名			
日付	/	/	/	/	/	/	/
時間	:	:	:	:	:	:	:
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
強いだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
強い息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有

避難所入所時				氏 名			
日付	/	/	/	/	/	/	/
時間	:	:	:	:	:	:	:
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
強いだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
強い息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有

避難所入所時				氏 名			
日付	/	/	/	/	/	/	/
時間	:	:	:	:	:	:	:
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
強いだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
強い息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有

避難所入所時				氏 名			
日付	/	/	/	/	/	/	/
時間	:	:	:	:	:	:	:
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
強いだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
強い息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有

この様式を使う場合は、表面と裏面を両面コピーしてください。

避難所利用者登録票 表面

受付番号 **A-1**

〇〇教室

避難所名
記入者氏名
住所
電話番号
携帯電話
FAX
メール
その他
連絡先
(親戚など)

避難所
① 避難所
② テント (避難所敷地内に設置)
③ 車両 (避難所敷地内に駐車)
④ 避難所以外の場所
(自宅 / 他 ())

避難所に協力
できること
(特技・免許・組
内業・職名)
役職・公職名)

けがや病氣・障がい・アレ
ルギーの有無、妊娠中、
使用できる言語など、特に
配慮が必要なこと

必ず確認！
安全確認
への対応※

公 開
非 公 開
公 開
非 公 開
公 開
非 公 開
公 開
非 公 開
公 開
非 公 開

ペットの
状況
飼っていない
飼っている(右欄へ
種類
色

同伴希望(ペット台帳に記入)
増きまり
ナンバー

・世帯(家族)ごとに記入して、総合受付に提出してください。
 ・ご記入いただいた情報は、食料や物資の配給や健康管理などの支援を行うため、避難所
 運営のために必要最低限の範囲で共有します。また災害対策本部にも提供し、被災者支援
 のために市が作成する「被災者台帳」にも利用します。

※安否の問い合わせがあった場合に、住所(〇〇町〇〇丁目まで)と氏名、
 ふりがなを公開してもよいか個人ごとに必ず確認してください。

避難所利用者登録票 裏面:運営側(受付担当)記入用

<登録時>

- 運営側(受付担当)は、記入者とともに表面の記載を確認する。
 - ・安否確認への対応(公開・非公開)個人ごとに○がついているか。
 - ・けがや病氣、障がい、アレルギーの有無、妊娠中、使用できる言語(ま
たは日本語が理解できるか)など、とくに配慮が必要なことはあるか。
→詳細を聞き取ったら↓「本人からの申告・聞き取り事項」に記入

●受入先

受入先 (滞在先)	場所	<input type="checkbox"/> 避難所 [] ブロック <input type="checkbox"/> テント (避難所敷地内に設置) <input type="checkbox"/> 車 両 (避難所敷地内に設置) <input type="checkbox"/> 避難所以外の場所 (自宅 / その他 ())
	グループ名	
世帯主	38.0度	本人からの申告・聞き取り事項など 息苦しさあり
家族1	2	強い倦怠感
	3	37.7度

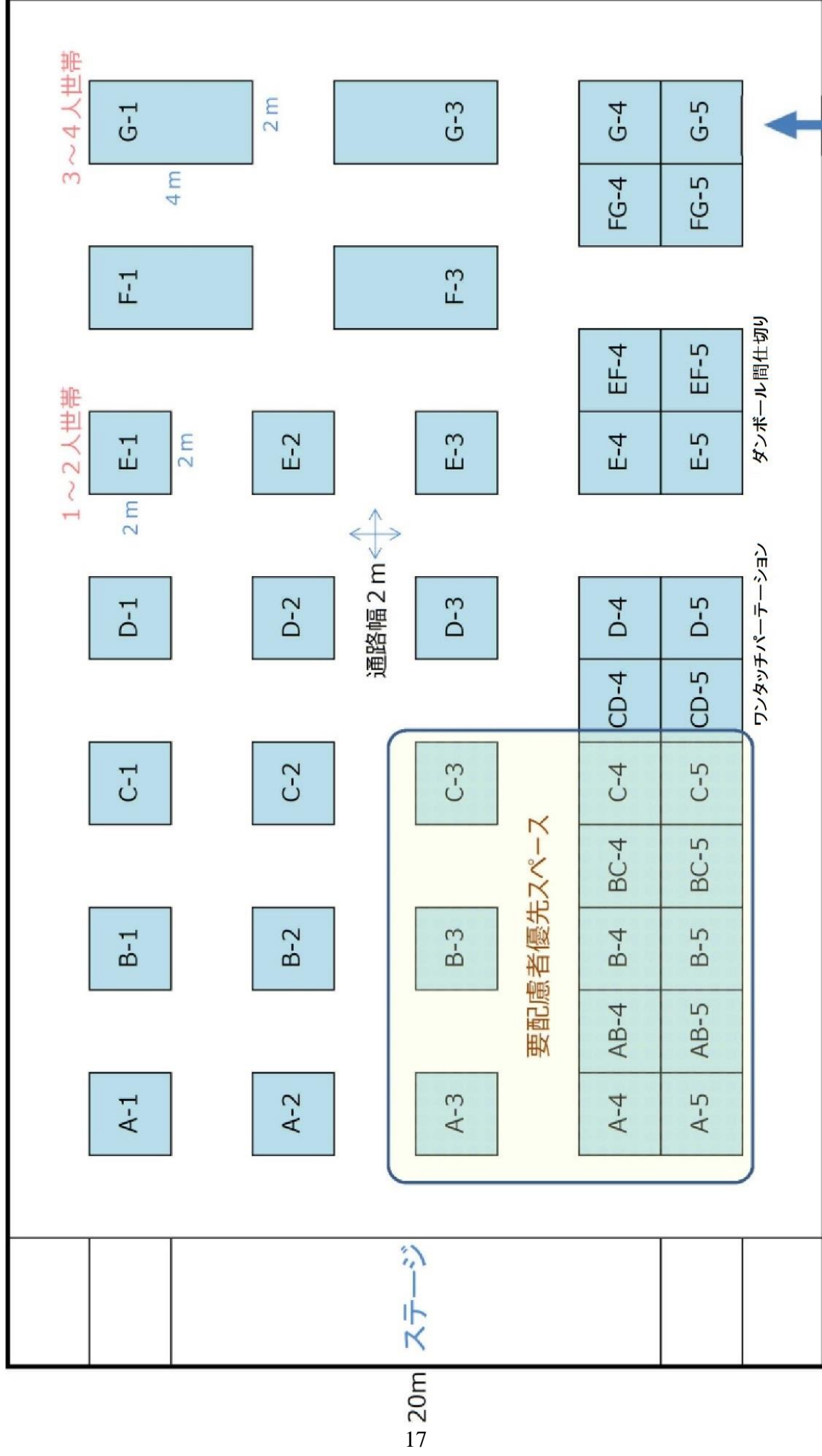
<転出・退出後>

「退所届」受付後に記入し、「退所届」と合わせてファイルに綴じること

退所届	受付日	年	月	日 ()
	受付番号			

避難スペース レイアウト案 (例：小学校体育館)

35m



使用する体育館の大きさや収容する避難者数等に応じてレイアウトを設定する必要があります。

入退所のルール（感染症対策版）

避難されてきた方へ

<共通ルール>

□人との間隔は、2 m（最低1 m）

□マスクの着用

感染防止にご協力を

□こまめに手洗い

<避難所に入所するとき>

① マスクの着用、アルコール消毒後、職員等が検温チェックを行います。

② 受付で「避難所利用者登録票」を記入して、提出してください。

避難所派遣職員からの問診を受けてください。

③ 「健康管理チェックリスト」を配布します。

※「健康管理チェックリスト」は、入所時のほか、朝晩2回の体温などを継続して記入し、入所中は自身で保管してください。

④ 避難所内の情報掲示板に掲示されている衛生環境保持のためのルール等を確認してください。

⑤ 居住スペースにご案内します。

<避難所から退所するとき>

① 居住スペースの掃除をしてください。（ゴミは指定されたゴミ集積所に置くか、各自でお持ち帰りください。）お体の都合などにより掃除をすることが難しい場合は、協力いただける方又は避難所派遣職員にご相談ください。

② 受付で避難所退所を避難所派遣職員に報告してください。

衛生環境保持のためのルール（感染症対策版）

- * 食事の前、トイレの後は手を洗い、消毒液で消毒しましょう。
- * 炊き出しや配食に従事する場合は、手を洗い消毒液で消毒しましょう。また、ゴム手袋及びマスクを装着しましょう。
- * 室内と屋外で履物を履き替えましょう。また、室内トイレを使用する際は、トイレ用の履物を使用しましょう。
- * 避難所内の皆さんで協力し合い、交代で清掃を行いましょう。
- * 嘔吐者が出た場合は、消毒液や塩素系漂白剤で消毒しましょう。また、嘔吐などで汚染した衣類も感染源となるため、脱いだ衣類をビニール袋に入れるなどの措置を行ってください。
- * 原則マスクを着用しましょう。マスクがない場合は、ティッシュやハンカチで口と鼻を覆いましょう。また、とっさに咳が出るときは袖や上着の内側で覆いましょう。
- * 他の人に飛沫が飛ばないように、他の避難者とは2メートルほど離れるか、向かい合わせではなく背を向けて座るようにしましょう。
- * 高熱、強いだるさ、息苦しさがある場合は、速やかに避難所派遣職員に申し出てください。また、それ以外でも軽い風邪症状（発熱、咳など）、嘔吐、下痢が続くなど、感染症が疑われる場合についても、避難所派遣職員に申し出てください。

避難前における新型コロナウイルス感染症対応マニュアル（市民相談用）

共通認識
(避難の前に)

1. 本日に避難が必要か（ハザードマップなどからお住まいの地域が危険な場所か）を確認します。
2. 「避難」とは「避」けることであり、自宅での安全確保が可能な人は、感染リスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。
3. 自宅が危険な場合も避難先は市指定の避難所だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

避難が必要ですか？

- お住まいの地域に避難勧告等が発令されている
- お住まいの地域に土砂災害警戒区域や浸水想定区域がある
- 周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まい

No

自宅待機

Yes

感染症の疑いがありますか？

- 感染を疑う症状がある
 - ① 息苦しい、強いだるさ、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
 - ② 重症化しやすい方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
(高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患(COPD等)等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方、また妊娠の方も同様)
 - ③ 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合
(症状が4日以上続く場合は必ず相談してください。また、強い症状、解熱剤を飲み続けなければならない症状も相談してください。)
- 小児については小児科医による診察が望ましく、かかりつけ小児医療機関に相談してください。
- 該当症状が無く本人や家族等が感染を疑う場合又は判断に迷う場合

※1

※2

Yes ※1 ※2

※1、※2に相談等の後、連絡をもらう

避難所への避難が必要ですか？

- Yes
- No

市内避難所へ避難 ※3

自宅療養 医療機関 等

親戚・知人宅へ避難

市内避難所へ避難 ※3

避難所運営

新型コロナウイルス感染症受付対応マニュアル対応(避難所派遣職員用)

※1 本人または家族等が連絡し相談してもらう

- ① 帰国者・接触者相談センター（知多保健所）
平日:午前9時～午後5時 夜間・土日・祝日:オンコール（24時間）体制
☎ 0562-32-1699
- ② 厚生労働省の電話相談窓口
症状に不安がある場合など一般的な問合せ窓口
受付時間 9:00～21:00（土日・祝日も実施）
☎ 0120-565-653

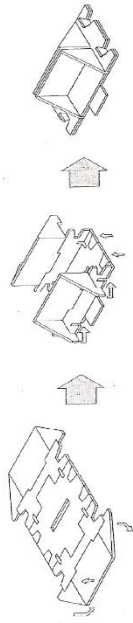
帰国者・接触者相談センター・電話窓口の相談結果で感染の疑いがある場合は専門の「帰国者・接触者外来」を紹介しています。

※2 知多保健所に家族等が連絡し指示・助言を得てもらう

- ☎ 0562-32-6211
- 担当 環境食品安全課（24H 夜間当直）
- 保健所が搬送するか救急車で搬送するかを確認する。
- 搬送医療機関の選定をお願いする。

※3 避難する前に準備するものや注意などを案内する

- 非常持ち出し品を持っていくこと
- 体温計、手指消毒液、マスク、（ゴム手袋もあれば...）
- 避難所受付での検温等への協力を依頼
- 感染の疑いがある場合や自宅療養者、濃厚接触者は受付で必ず伝えることを依頼

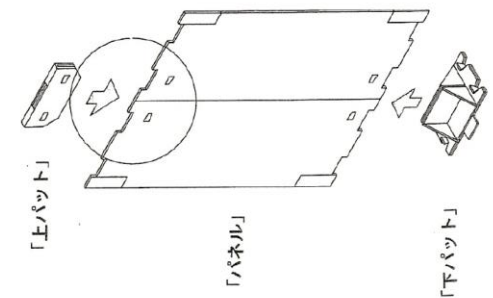


マジックパネル組み立て方法

- イ) 「パネル」を開いてください。上下・左右・裏表はありません。
- ロ) 「下パット」組立図①を参考に組み立ててください。
- ハ) 「パネル」組立図②を参考に、「下パット」を「パネル」の下側センターへはめ込み、「上パット」を上側センターへはめ込みます。
- ニ) 「直縁部」組立図⑤を参考に「パネル」をつなぎます。つなぎ目にも、「下パット」「上パット」を使用します。
- ホ) 「ジョイント」組立図④を参考に「ジョイント」を組み立ててください。
「コーナー・接合部」組立図⑥を参考に「パネル」をつないでいってください。
- ヘ) 下記の図を参考にして部屋を作ってください。間取りは自由に変えられます。

注意事項

- 必ずこの順序に従って組立ててください。
- もしもたたり物が自立して倒れますと「パネル」の転倒の危険があります。できる限り注意してください。
- 段ボール製（紙製）なので雨（水分）には強くありません。あくまでも雨（水分）のかからない屋内で使用してください。
- 風で「パネル」が動いたり、転倒することがありますのでご注意ください。
ガムテープで「下パット」を固定しますと少々風の風には耐えられます。
- 穴や隙間は、気になるようでしたらクラフトテープで隠してください。



4. 5番×10部屋 71枚

1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

6番×10部屋 86枚

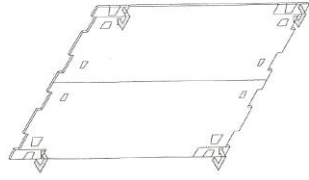
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

8番×10部屋 98枚

1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

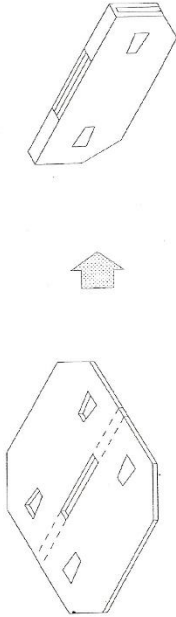


⑤「直縁部」組立図

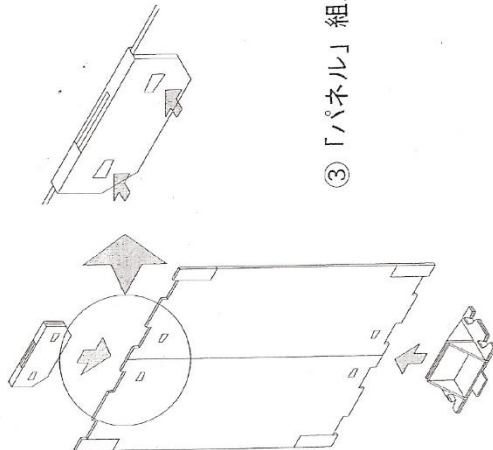


⑥「コーナー・接合部」組立

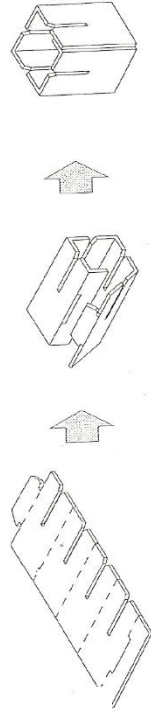
②「上パット」組立図



③「パネル」組立図



④「ジョイント」組立図

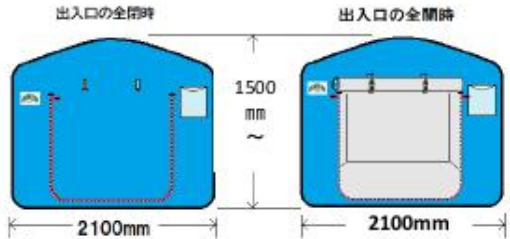


ワンタッチ間仕切りテント
『防災ルーム』
取扱説明書
要保管



BR-150 & BR-180

ワンタッチ間仕切り図面&仕様書



【仕様】	幕体 素材: ポリエステル(抗菌&難燃&断熱のシルバークーティング加工)
	フレーム素材: 平鋼スチール(一体四面立方体構造)
	収納時: 約75cm×85cmφ×厚約8cm/総重量: 約6Kg~7.5Kg

■左記図面・上記写真の間仕切りテント『防災ルーム』は、弊社標準仕様
の出入口形状がU字ファスナー開閉式の標準間仕切りテントです。
※形状の仕様指定の場合は形は違いますが、設置・収納方法は同じです



**火気
厳禁**

- 【お取扱いの注意点】 ※必ずお読みください。**
- ①防災ルームは室内専用の間仕切りです。屋外での使用は出来ません。
 - ②防災ルーム内での火のご使用は厳禁です。ルーム内は狭く大変危険です。
 - ③防災ルームにはぶら下がらないで下さい。ワイヤー自立のみの柔い構造です。
 - ④防災ルームにはテント自立のための帯ワイヤーが入っています。フレームに歪みが出た場合はテント円周のワイヤー反転を修正して下さい。(縦から横へ)
 - ⑤防災ルームの生地に鋭利なもので触れないで下さい。生地が破れます。
 - ⑥テント枠の帯ワイヤーをカバーしている生地部が破けてワイヤーが露出した場合には生地等をあてて修理して下さい。露出のまま放置するのは危険です。
 - ⑦防災ルームが水等でぬれた場合は、風通しの良い場所で陰干しをして下さい。
- 収納時はテントを乾かして付属の収納袋に入れて保管して下さい。



【収納姿】
保管は収納袋に入れて
保管して下さい。



株式会社キャラバンジャパン

〒343-0047 埼玉県越谷市弥十郎668-1
TEL048-973-2711 FAX048-973-5620
E-mail tent@caravanj.co.jp

MADE IN CHINA

■本商品のご使用時には取扱説明書を必ずお読み頂き取扱い上の注意を守ってご使用下さい。いつでも確認できる場所へ保管下さい。

設置 & 収納方法

■設置方法: バックから出して、広げて4面を整えるだけの60秒設置です!

【設置方法】収納袋から出して→輪を広げて平面に→平面を立上げ→4面に広げます→4方を整えてセット→出入口を巻上げ完了!



■収納方法: 2人で収納する場合(対角側に立って折り畳み、対面側で谷折りして床に付けます。)

→防災ルームの角部分を→対角の奥に押し込み重ねて2面の状態にします→2面を重ねて1面にして床に置きます→短辺の両端を持ち→



谷折り状態で持上げ→反対の端を床に付け、その上に持手部の先端を奥まで入れ左右の手に持っている部分を交互に重ねて円形にします。



ご使用時は施設管理者の指示&マナーを守りましょう。撤去の際はテント内を掃除し、空気を出して収納袋に入れて下さい。

Eベッド+取扱説明書

E Bed+ User Manual



ご使用の前に本紙をお読みの上、組み立てて正しくお使い下さい。

Read this user manual for proper use of E Bed+ before assembling it.

■セット内容

Package contents



箱の中に写真のパーツ2点と取扱い説明書が入っています。

This package contains two parts and a user manual.

A: 天面用ダンボール × 1

A: Cardboard for top surface (1pc)

B: 保管スペース用ダンボール × 4

B: Cardboard for container (4pcs)

C: 取扱説明書(本紙) × 1

C: User manual (this leaflet)

組立/使用上の注意

Safety notice

- 1 ベッドを組み立てる際は段ボールの端などで手を切らないように注意して下さい。
1. Mind the sharp edge of the cardboard when assembling it; it may cut your finger.
- 2 火気のそばで組立/使用はしないで下さい。火災の原因になります。
2. Keep away from fire when assembling/using it.
- 3 水気のある場所では組立/使用はしないで下さい。
3. Keep away from water when assembling/using it.
- 4 設置は平らな場所に置いて下さい。ベッドのガタつきや破損の原因になります。
4. Place the E Bed+ on a flat surface, otherwise it may be distorted or damaged.
- 5 十分な重さに耐えられる構造ですが、一点だけに強い荷重をかけたり、強く座ると壊れる恐れがあります。
5. E Bed+ is designed to support certain weight, but please avoid concentrating load at one point or sitting on it heavily; it may damage E Bed+.
- 6 外観に異常がみられる時は使用をしないで下さい。
6. Please do not use E Bed+ if any failure can be observed.
- 7 小さなお子様が使用する際は、転落などによる事故にご注意下さい。
7. When using E Bed+ with small children, watch them carefully to avoid accidents such as falling out of it.
- 8 Eベッドは一人用です。
8. E Bed+ is designed for one person.
- 9 処分する際は各自治体の条例に従って下さい。
9. Please follow the local government regulations when disposing of E Bed+.

■組立

Assemble



箱から出す際に段ボールの端で手などを切らない様に注意して下さい。
Mind the sharp edge of the cardboard when taking arts from the package. It may cut your finger.



Bの組立。短手の蓋を右上写真の様に折り曲げて下さい。
Assemble parts B. Fold the covers on shorter edges as shown in the picture above.



矢印の部分を直角におりまげると次の工程がスムーズに行えます。



長手の蓋を、手順②で折り曲げた短手の切り込みに差し込んでください。
Fold the covers on longer edges and put them in the slit on the covers folded in step 2.



Caution!



差し込み位置がずれた状態で無理に押し込まないでください。破損の原因となります。
Do not push down the cover while it does not fit into the slit; it may damage the parts.



反対も同様に差し込む。
Follow the same procedure for the other side.



ひっくり返すと完成です。
Turn it over to complete.



残りの3箱も同様に組み立ててください。
Follow the same procedure for the other three boxes.



Bを4箱並べ、各箱のジョイントを行います。
Put the four boxes together to assemble them.



穴の開いた部分の反対側から突起を押し込んでください。
Push the tab into the hole as shown above.



計6か所、上写真の状態にしてください。
Follow this procedure at six places.



A天面の設置。矢印部分を折り曲げてBに差し込んでください。
Place the top surface A. Fold the tab as shown above and put it into part B.



両端を同様に差し込んで完成です。
Follow the same procedure on the other side to complete.



天面を開け、配給品・洋服などの保管にご利用ください。
Open the lid and store belongings such as provisions and clothes.

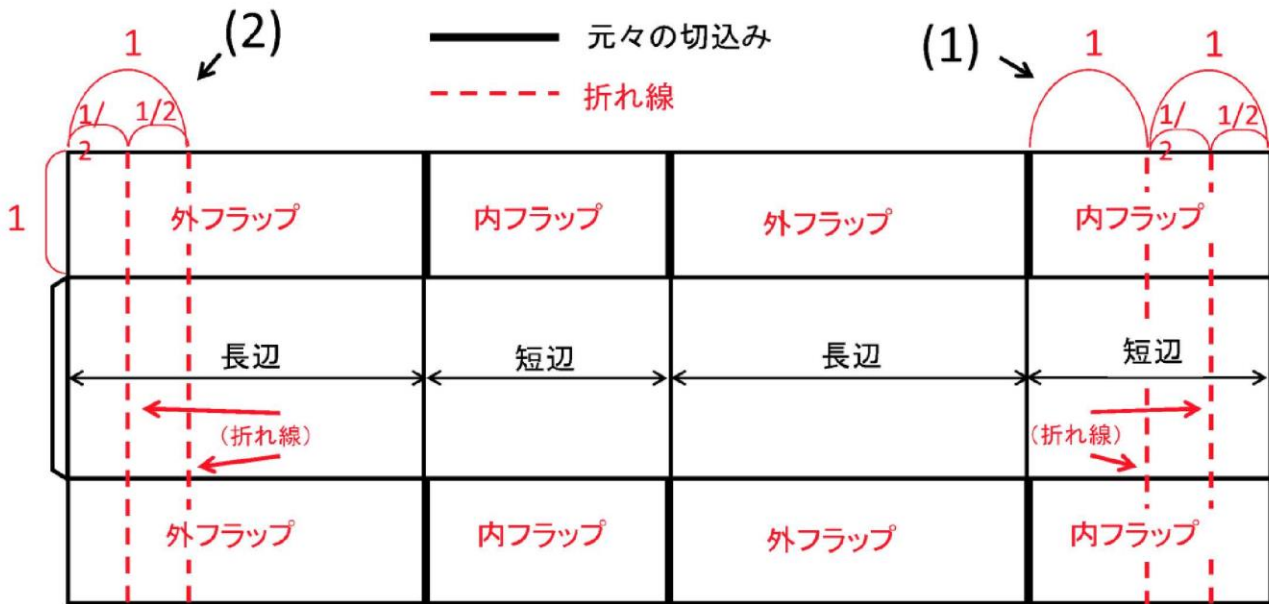
【お問合せ】Contact us
TEL : 0567-66-3581

Evolution to the Future

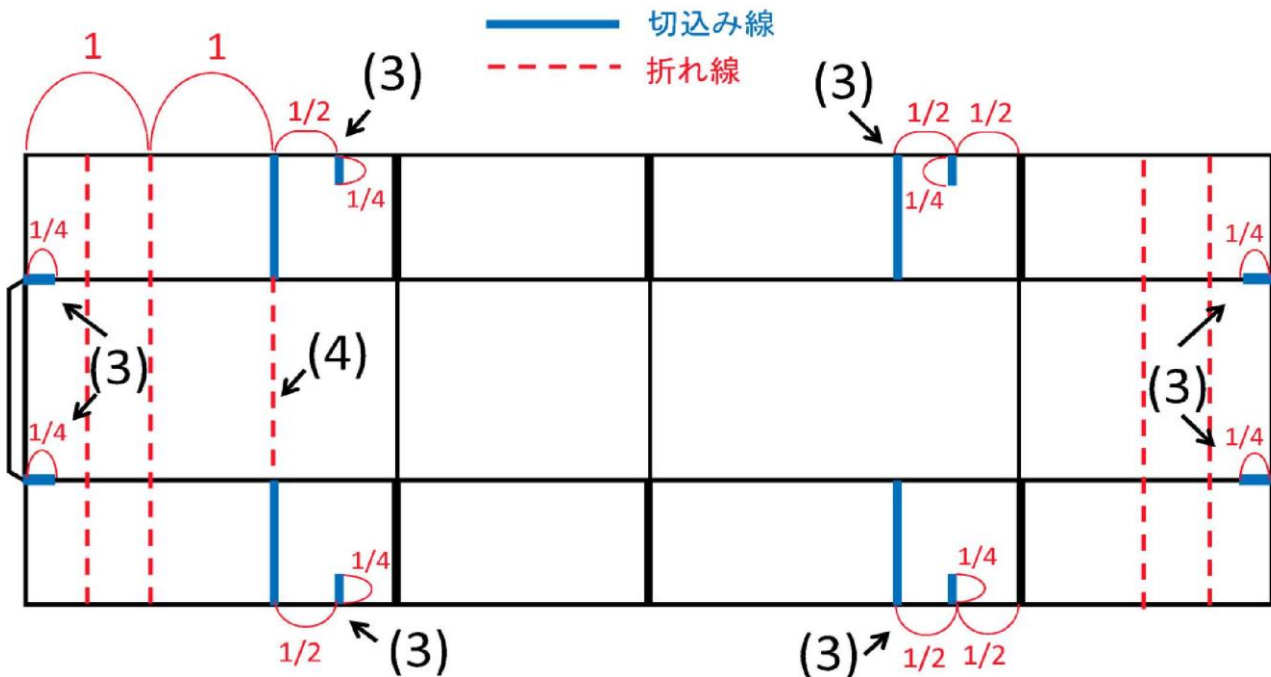


「六角式」間仕切りの作り方

2020.7.6 神奈川大学
工学部 経営工学科



- (1) 端になっている内フラップ(短辺の天地・ここでは右側)の長さを基準に、折れ線を2本入れる。
- (2) 反対側の端も、(1)と対称的に折れ線を2本入れる。



- (3) の青線の切込みを入れる(長4本、短8本)
- (4) の折れ線を入れる

「六角式」間仕切りの作り方

組立てる(下図の ④、⑤、⑥ の手順)

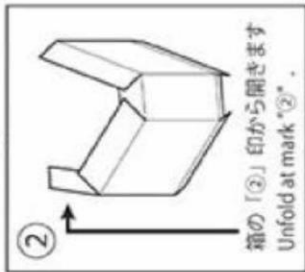
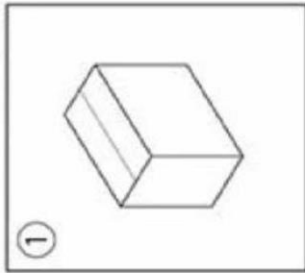
間仕切りの組立て方 (①～⑧)

How to make a partition (①～⑧)

①この空き箱を

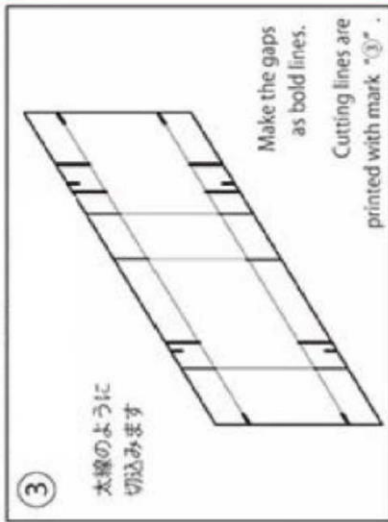
②広げて

① Unfold the empty box and ② get it flat.



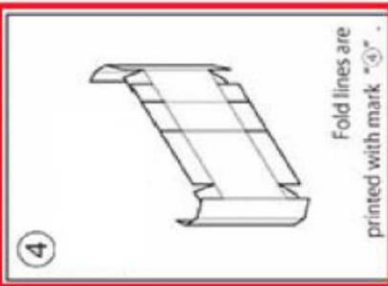
③平らにして切込みを入れる

③ Then make gaps.



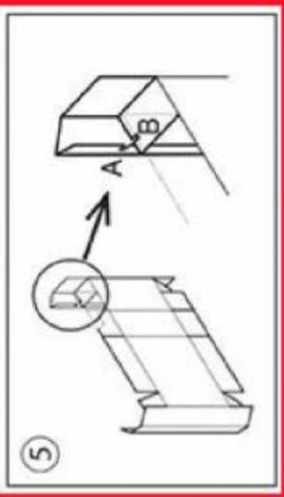
④点線に沿って折る。

④ Fold along the dotted lines.



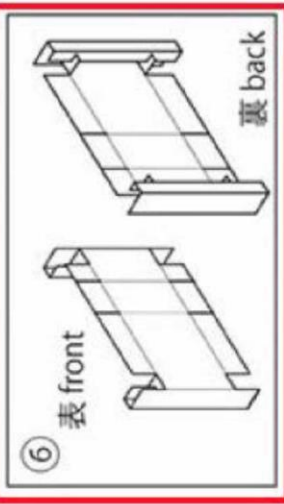
⑤切れ目 A, B 同士を差し込むと自立します。

⑤ Insert the gaps A and B each other then self-standing.



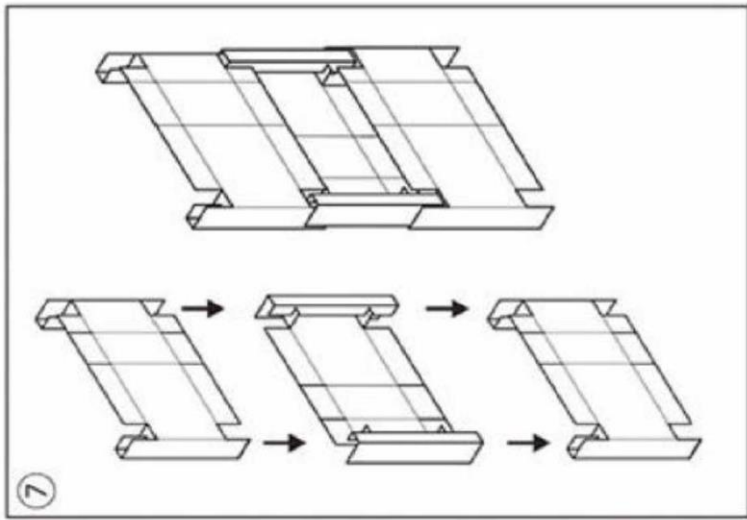
⑥ 出来上がり

⑥ Completed.



⑦ 互い違いに重ねガムテープなどで補強すれば高くすることができます。

⑦ The partitions can be stacked into higher one, stronger with duct tape etc., if you have.



【参考1 間仕切り(パーティション)の作り方・写真版】

神奈川大学工学部経営工学科 人間工学研究室(森研究室)2016

パーティションの作り方

★必要なもの★

対象年齢 9才以上 段ボール1箱、カッター



①

フタの切れ目に沿って反対側に切込みを入れる。

②

白線部分を切り、段ボールを開く。a, bを立てる。

③

柱を製作するために、点線部分を谷折りする。

④

白線部に切込みを入れ、組み合わせる。

⑤

片方の柱が完成。もう片側も製作する。

⑥

c, dを立てる。

⑦

③と同様に谷折りし、切込みを入れて組み合わせる。

⑧

白線部分を切り開く。

⑨

完成！！

⑩

重ねると壁になるよ！

【参考2 椅子の作り方】

椅子の作り方

神奈川大学 工学部 経営工学科
人間工学研究室
石井純理 栗原 中山和博

★必要なもの★
段ボール箱 2つ、カッター



1 段ボール1箱を図の赤線部に沿って切断し、2つにする。



2 点線部を谷折りする。



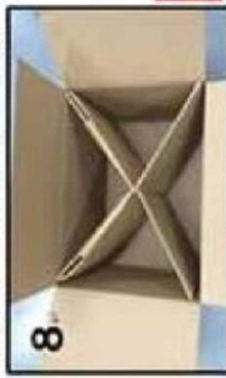
3 もう1つの段ボールを箱に組み斜めに差し込む。



4 前の工程でつけた印に沿って折り目をつけて谷折りする。



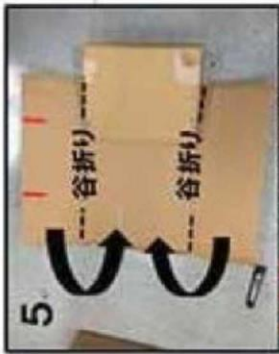
6 切込みに合わせて両側を組み合わせると支えが1つ完成。



8 2か所の切込みを組み合わせる



9 段ボールのふたを閉めると完成!!



5 赤線部2か所に切込みを入れ、点線部2か所を谷折りする。



7 支えをもう1つ作り赤線部2か所に切込みを入れる。



POINT!!

新聞紙や衣類を挟むとクッションになる!



1 日程度の使用が可能です!

【参考3 ベッドの作り方】

神奈川県立工業高等専門学校4年人間工学専攻 石井純彦、中山和博

段ボールベッドの作り方

対象年齢
9歳以上

* 必要なもの *

段ボール、カッター

切り込み
折り

⑪ 支えを作る

支えの長さ(目安)

【宅配140サイズ】標準段ボール箱
600×400×350 A式 厚み 5mm

の場合

1箱	→ 60cm
2箱	→ 120cm
3箱	→ 180cm

作りたいベッドの長さに合わせて段ボール箱を用意する。

⑫

赤線部分を切る。a, b同じ大きさのものが各4枚できる。

⑬

段ボールの折り目に沿って、半分に折る。

⑭

③で段ボールが重なっていない部分を切り、開いて折り目に沿って切り取る。

⑮

④で切った段ボールを半分に折る。②～⑤を繰り返す。
Point → 段ボール等を当てて、きれいに折る

⑯

山折りが上になるように、同じ数字部分を組み合わせる。

⑰

⑥～⑧を繰り返す。
正三角形の支えが完成する。

⑱

柱を並べる！
パーティションの上に被せたら段ボールベッド完成！！

⑮

⑥～⑧を繰り返す。
正三角形の支えが完成する。

⑯

柱を並べる！
パーティションの上に被せたら段ボールベッド完成！！

⑰

⑥～⑧を繰り返す。
正三角形の支えが完成する。

⑱

柱を並べる！
パーティションの上に被せたら段ボールベッド完成！！

⑳

柱を並べる！
パーティションの上に被せたら段ボールベッド完成！！

㉑

柱を並べる！
パーティションの上に被せたら段ボールベッド完成！！

知多市避難所運営マニュアル（別冊）

新型コロナウイルス等感染症を 踏まえた避難所開設運営

令和2年9月策定

編集・発行 知多市総務部防災危機管理課
〒478-8601
知多市緑町1番地
TEL 0562-36-2638（直通）
0562-33-3151（代表）
FAX 0562-32-1010